

病虫害発生予察 6 月 月 報

6 月の気象表（長野地方気象台発表）

官 署		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長 野	本年	20.3	18.9	23.4	3.5	20.5	16.5	82.2	45.4	70.5
	平年	19.0	20.2	21.1	17.0	32.9	59.3	67.4	56.7	41.4
松 本	本年	20.5	18.9	23.3	8.0	34.0	19.5	90.9	50.3	65.0
	平年	18.7	19.9	21.0	19.3	42.4	64.0	65.6	55.8	42.3
諏 訪	本年	19.5	18.4	21.7	16.0	43.0	75.5	85.8	57.4	63.0
	平年	17.9	19.0	20.2	23.1	53.9	87.2	65.2	54.4	40.2
軽井沢	本年	16.0	14.0	19.2	9.5	84.5	28.5	83.2	31.9	71.3
	平年	14.4	15.7	16.8	26.4	55.3	73.9	56.2	45.8	32.1
飯 田	本年	20.6	20.2	22.5	28.0	78.5	32.0	78.6	56.2	51.3
	平年	19.1	20.2	21.5	36.3	63.2	103.7	60.8	51.0	39.6

日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強く、上旬には日本の東海上で移動性高気圧の勢力が強まりやすかった時期もあり晴れた日が多くなりました。中旬から下旬にかけては、上空の寒気や梅雨前線、湿った空気の影響により曇りや雨の日もありました。月平均気温は高くなりました。

月降水量は北部では少ないか、かなり少なく、中部と南部では平年並か少なくなりました。月間日照時間はかなり多くなりました。

気象庁予報部は、「関東甲信地方は 6月29 日ごろに梅雨明けしたと見られる」と発表しました（速報値）。

1 麦

(1) 生育概況

第 1 表 麦の生育状況（須坂市：農業試験場作物部）

品 種 名	区分	出穂期	成熟期		
			稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)
ファイバースノウ (大麦)	平年	5/ 5	93	5.1	521
	前年	5/ 2	93	5.0	495
	本年	4/30	96	5.1	425
シラネコムギ (小麦)	平年	5/10	85	8.5	513
	前年	5/ 8	86	8.4	521
	本年	5/ 5	81	8.1	461

<耕種概要>播種期：大麦 2017年11月6日 小麦 2017年11月6日

注）平年値は過去7ヵ年における最大値と最小値を除いた 5ヵ年の平均値

(2) 病虫害の発生状況

1) 麦類赤かび病

大麦、小麦とも平年に比べて少ない発生であった。

2) さび病

県南部や県東北部地域で平年に比べ発生が目立つは場もみられ、全般に平年に比べ発生地点率は高く、平年並み～やや多い発生であった。

3) うどんこ病

県中部地域の一部地域で平年に比べ発生が目立つは場がみられたが、発生時期、平均病斑面積歩合、発生地点率は平年並みであった。

4) 小麦の土壌伝染性ウイルス病（コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病）

本年の発生面積は、過去8年間と比べて少ない。

2 水 稲

(1) 生育概況

第 2 表 イネの生育状況（須坂市：農業試験場作物部）

品種名	区分	移植後 2 0 日			移植後 3 0 日			移植後 4 0 日		
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡
あきた こまち	平年	6.7	28	194	8.5	35	427	9.9	52	612
	前年	6.8	28	199	8.2	31	325	9.6	44	532
	本年	6.3	24	178	7.5	31	288	9.1	39	591
コシヒ カリ	平年	6.8	30	229	8.5	37	488	10.0	53	676
	前年	6.9	30	241	8.2	32	400	9.6	47	621
	本年	6.7	31	228	7.9	35	372	9.4	46	622

* 移植期：2018年5月21日

* 平年：2011～2017年のうち収量の最多、最少を除く7中5年の平均値

第 3 表 イネの生育状況（原村：農業試験場原村試験地）

品種名	区分	移植後 2 0 日			移植後 3 0 日			移植後 4 0 日		
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株
ゆめし なの	平年	6.0	29	111	7.4	37	263	9.0	54	540
	前年	5.9	30	68	7.2	33	160	9.0	47	368
	本年	5.9	30	121	7.2	35	249	8.8	57	521

* 移植期：2018年5月25日

(2) 病虫害の発生状況

1) いもち病

葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月6日から感染好適

条件が初出現し、6月12、30日、7月5、7、8日には感染好適条件が広域で出現しており、7月上旬巡回調査において発生を確認した。

2) ニカメイチュウ

小布施町のフェロモントラップによる誘殺は確認されなかった。

近年、ニカメイチュウの発生量は全般に少ない傾向で推移している。ただし、上田市の予察灯調査では、平年に比べ誘殺数が多い傾向で推移した。

第4表 ニカメイチュウ成虫のフェロモントラップ誘殺消長（小布施町）

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
平成1～29年の平均	79.9	123.9	155.9	132.8	63.8	17.8
平 年	0.4	0.7	0.3	0.0	0.1	0.0
本 年	0	0	0	0	0	0

*平年は過去10年の平均

第5表 ニカメイチュウ成虫の予察灯による誘殺消長（上田市）

月・半旬	5・5	5・6	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
平 年	1.0	3.3	2.1	1.4	2.5	1.6	0.8	0.4
本 年	4	13	1	5	0	0	0	0

*平年は過去10年の平均

3) ツマグロヨコバイ

第1世代成虫の発生は、予察灯による誘殺数も少なく、平年並からやや少なかった。

4) ヒメトビウンカ

第2世代成虫の発生は、平年並みからやや少なかった。

5) イネミズゾウムシ

アメダスの気温データによる越冬後成虫の出現時期の予測では、発生時期は平年に比べ早かったが、6月の越冬成虫の発生は平年に比べてやや少なく、発生地点率、被害程度も全般に平年に比べてやや少なかった。

6) イネドロオイムシ

全般に発生時期は平年並みであったが、発生量は平年に比べやや少なく、幼虫による被害も平年と比べてやや少なかった。

7) セジロウンカ

予察灯による誘殺は確認されなかった。

8) トビイロウンカ

予察灯による誘殺は確認されなかった。

9) カメムシ類

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況は、一部地点で6月5～6半旬の誘殺数が平年に比べて多い。

3 りんご

(1) 生育概況

第1表 りんごの果実肥大状況（須坂市：果樹試験場）（単位・mm）

調査 日	つがる								ふ じ							
	縦 径				横 径				縦 径				横 径			
	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年	本年	比	平年	前年
6/1	34.6	126	27.6	27.8	36.4	130	28.0	29.0	34.8	129	27.0	27.1	36.3	140	26.0	27.0
6/15	43.9	115	38.3	38.3	48.9	119	48.9	41.3	42.0	116	36.1	35.1	47.6	123	38.6	37.5
7/1	54.0	109	49.6	48.8	62.1	110	56.3	54.7	49.8	112	44.6	42.0	58.6	115	50.9	47.5

平年は2003～2017年の平均値

(2) 病害虫の発生状況

1) うどんこ病

芽しぶが多かった園地では発生が多かったが、全般には平年並みであった。

2) 斑点落葉病

全般に発生はほとんどなく平年並みであった。

3) 黒 星 病

5月上旬頃から北信地域を中心に葉の病斑が確認され、果実病斑もみられた。全般的にやや多かった。

松本地域でDMI剤耐性菌の発生地から導入した苗木に黒星病が多発していたため、黒星病の注意報（6月19日）を発出した。

4) 赤 星 病

6月下旬頃から一部の園地で発生がみられた。全般に発生は平年並みであった。

5) 果実腐敗性病害

巡回調査までの発生はみられず、全般に平年並みの発生であった。

6) 腐 ら ん 病

巡回調査では、枝腐らん、胴腐らんの発生が目立ち、全般にはやや多い発生であった。

7) ハ ダ ニ 類

巡回調査は場ではナミハダニ、リンゴハダニの寄生が散見された。各調査は場における発生程度は平年並みであった。

8) シンクイムシ類

果樹試験場内のモモシンクイガ越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺状況は第2表のとおりである。

第2表 モモンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）						
月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本年	5	11	2	12	0	0
平年	3.3	7.6	7.6	12.5	7.5	5.0

平年は過去10年平均値

9) リンゴコカクモンハマキ

果樹試験場内の越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺状況は第3表のとおりであった。

第3表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）						
月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本年	0	0	0	0	0	0
平年	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平年は過去10年平均値

10) キンモンホソガ

第1世代成虫の発生時期はやや早く、発生量はやや多かった。

第4表 キンモンホソガのフェロモントラップ誘殺消長（須坂市：果樹試験場）						
月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本年	51	115	176	153	14	18
平年	17.9	37.1	29.3	16.7	33.7	23.6

平年は過去10年平均値

11) ギンモンハモグリガ

発生量は全般に平年並みからやや少なかった。

12) アブラムシ類

多くのほ場で寄生がみられたため、発生量は全般にやや多かった。

4

なし

(1) 生育概況

第1表 なしの果実肥大状況（高森町：南信農業試験場）（単位・mm）

品 種	区分	5月15日		6月1日		6月15日		7月1日	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
二十世紀	平年	15.6	17.1	25.7	25.5	32.2	30.7	38.3	35.5
	前年	11.7	12.4	24.4	22.6	30.8	27.6	37.6	32.7
	本年	20.6	20.5	29.6	28.0	36.7	35.1	44.1	40.4
幸 水	平年	14.5	14.0	25.1	22.1	32.5	27.8	40.6	33.8
	前年	10.4	10.9	23.1	19.5	31.1	25.7	39.2	31.7
	本年	18.2	15.8	29.5	25.1	37.6	31.9	45.4	37.7
豊 水	平年	17.3	18.2	26.8	25.8	33.3	31.3	40.3	37.1
	前年	14.2	14.8	24.8	23.2	31.4	28.5	38.3	34.5
	本年	21.8	20.6	31.4	28.8	39.6	36.4	46.7	41.8

平年は1990～2010年の平均値（幸水は長果枝と短果枝の平均）

(2) 病害虫の発生状況

1) 黒斑病

県予察ほの発病は平年並みと思われる。

第2表 アルタナリア属菌の分生孢子捕捉数（高森町：南信農業試験場）

半旬	5月						6月					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
平年	1.8	3.4	5.4	5.6	6.2	10.3	11.9	19.1	33.2	26.4	26.5	15.4
前年	0	1	6	7	7	4	2	35	6	10	27	14
本年	2	2	2	4	3	2	10	9	34	23	23	16

18mm×18mm当たりの孢子数（個） 平年は過去10年の平均値

第3表 果実の発病（南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布）

	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	0.0	0.1	0.2	1.3	2.6	12.5	42.1
前年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0
本年	0.0	0.0	0.0	1.7	8.7	26.5	36.4

平年は過去10年平均値

第4表 新梢葉の発病（南信農業試験場「二十世紀」殺菌剤無散布樹）

	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	0.1	0.2	1.2	5.2	8.3	13.3	20.6
前年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	9.7	9.0
本年	0.0	0.0	1.2	9.2	24.6	52.8	54.5

平年は過去10年平均値

2) 黒星病

巡回調査ほでは6月下旬巡回以降、1ほ場で発生がみられた。県予察ほでは5月中旬に果実発病がみられ、以降、発病は増加し、7月上旬ではほぼ平年並みとなった。

第5表 果実の発病（高森町：南信農業試験場）

	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	9.6	27.2	35.6	38.3	43.0	55.3	66.9
前年	0.0	6.5	12.0	24.5	47.0	56.5	69.0
本年	32.8	51.1	66.0	83.8	87.3	88.8	98.9

「幸水」殺菌剤無散布樹で調査 平年は過去10年平均値

3) 赤星病

巡回調査ほでの発病はみられなかった。

4) うどんこ病

巡回調査ほでの発病はみられなかった。

5) 輪紋病

巡回調査ほでの発病はみられなかった。

6) 枝幹性病害（胴枯病・枝枯病）

巡回調査ほでの発病はみられなかった。。

7) リンゴコカクモンハマキ

巡回調査ほで寄生はみられなかった。

第6表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
平年	2.2	1.4	0.8	0.2	0.1	0.1	0	0
昨年	3	1.5	1	0.5	0.5	0	0	0
本年	2.5	0.5	0	0.5	0	0	0	0

8) ナシヒメシンクイ

巡回調査ほでの寄生はみられなかった。

第7表 ナシヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
平年	0.1	0.4	0.3	0.9	1.5	1.1	1.6	0.7
昨年	0	0	0	0	0	1.5	1	1.5
本年	2	2.5	0.5	1	1.5	1	0.5	0.5

9) モモシンクイガ

巡回調査ほでの寄生はみられなかった。

第8表 モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
平年	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3
昨年	0	0	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0	0	0

10) ハダニ類

リンゴハダニ・ナミハダニの寄生がやや多い園地もみられるが、寄生は全般に平年並みであった。

11) アブラムシ類

巡回調査ほの一部で発生がみられた。

12) カメムシ類

南信農業試験場の集合フェロモントラップでの7月第2半旬の誘殺数は平年よりも多い。

第9表 カメムシ類の誘殺状況（高森町：南信農業試験場）

月・半旬	6・1	2	3	4	5	6	7・1	2
クサギ	昨年	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0.2
平年	0	0	0	0	0	0	0	0
本年	2	0	0	0	4	0	0	0
チャバネ	昨年	1.3	1.5	0.8	3.3	1.6	2.4	12.1
平年	0	0	0	0	0	0	7	1
本年	1	0	1	0	9	1	6	15

13) クワコナカイガラムシ

第一世代卵の孵化時期（完了期）の予測は標高560m地帯で7月上旬の見込みである。

第10表 發育有効積算温度によるクワカバラムの第1世代卵のふ化完了予測

時 期	本年	平 年	昨 年	2016	2015	2014
第1世代ふ化完了予測日	7/8	7/21	7/20	7/15	7/14	7/20

平年値：過去10年間の平均気温より算出 (高森町：南信農業試験場・標高560m)

起算日：越冬卵ふ化完了日 發育零点：10.5℃ 有効積算温度：640日度

5 も も

(1) 生育概況

第1表 ももの生育状況 (須坂市：果樹試験場)

品 種	月 日	縦径(mm)			横径(mm)			側径(mm)			指 数		
		本年	昨年	平年	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
白 鳳	6/1	40.9	31.1	31.2	36.1	27.0	26.6	30.0	23.0	22.4	13.5	7.8	8.0
	6/8	45.6	39.2	38.5	42.4	35.9	34.9	36.0	31.6	30.0	17.9	13.2	12.7
	6/15	47.9	43.7	43.3	45.0	41.4	40.8	40.0	36.7	35.9	20.4	17.1	16.8
	6/22	49.6	46.1	46.3	47.3	44.4	44.8	42.3	40.0	40.4	22.2	19.5	19.8
	6/29	51.7	48.3	48.8	49.4	47.4	48.0	44.8	43.5	44.0	24.4	22.0	22.6
	7/6	55.5	52.4	51.8	54.0	52.3	51.4	50.5	49.9	48.3	29.0	26.8	26.0
	7/13	57.9	57.3	55.7	56.8	57.6	55.7	55.1	56.5	53.6	32.4	32.7	30.7
川 中 島 白 桃	6/1	38.7	34.5	31.3	33.7	30.0	26.8	29.7	25.4	22.5	12.3	9.6	8.0
	6/8	47.0	41.5	38.6	43.4	38.5	35.4	37.8	33.5	30.3	19.1	15.0	12.9
	6/15	49.2	46.5	43.3	47.1	44.3	41.1	42.0	38.3	36.5	21.9	19.2	16.9
	6/22	51.5	49.0	46.0	50.2	48.1	45.0	45.4	43.0	40.4	24.6	22.4	19.7
	6/29	53.0	51.0	47.8	51.9	50.9	47.5	47.5	46.4	43.5	26.4	24.8	21.8
	7/6	55.2	52.4	49.5	54.4	53.7	49.8	50.6	49.6	46.2	29.0	27.1	23.9
	7/13	57.8	55.1	51.8	57.3	56.6	52.5	55.7	53.5	49.5	32.7	30.4	26.5

平年値：白鳳(1981年～2017年の平均) 川中島白桃(1985年～2017年の平均)

指数＝縦径×(横径＋側径)／2／100

(2) 病害虫の発生状況

1) せん孔細菌病

葉及び果実の病斑がみられており、発生は多かった。

2) 縮 葉 病

巡回調査ほでの発生が認められず、発生は平年並みであった。

3) 黒 星 病

巡回調査ほでの発生は認められず、発生は平年並みであった。

4) 灰 星 病

巡回調査ほでの発生は認められず、発生は平年並みであった。

5) ハ ダ ニ 類

巡回調査ほでの発生は認められず、発生は平年並みであった。

6) モモハモグリガ

一部の巡回調査ほで発生はみられたが、全般には寄生葉はほとんどみられず、発生は平年並みであった。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長 (須坂市：果樹試験場)

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
本 年	43	299	28	17	12	34
平 年	212.2	612.2	410.8	215.9	70.9	50.6

平年値は過去10年の平均

7) ハマキムシ類

全般に「平年並」の発生であった。

8) シンクイムシ類

全般に「平年並」の発生であった。

6 ぶどう

(1) 生育概況

第1表 ぶどうの果実肥大状況 (須坂市：果樹試験場)

品 種	月 日	縦径(mm)				横径(mm)			
		本年	昨年	平年	平年比	本年	昨年	平年	平年比
巨 峰	7/1	21.0	15.2	16.9	124.6	18.2	13.2	14.5	126.1
	7/8	23.8	20.8	21.5	110.7	21.2	18.1	18.8	113.1

平年値は2006年～2017年の平均

(2) 病害虫の発生状況

1) 灰色かび病

巡回調査ほでの発生は認められず、発生は平年並みであった。

2) ベ と 病

巡回調査ほでの発生は認められなかったが、枝が混んでいる箇所などで発生がみられた。発生は平年並みからやや多かった。

3) ブドウトラカミキリ

発生量は「平年並み」であった。

4) ブドウスカシバ

発生量は「平年並み」であった。。

5) クビアカスカシバ

フェロモントラップでの誘殺数は平年より多く、発生量はやや多かった

6) チャノキイロアザミウマ

発生量はやや少いから平年並みであった。

7 野菜・花き

(1) 生育概況

本年は、気温が平年に比べ高めに推移したため、降水量が少ないところがあったものの、概ね生育は平年並であった。

(2) 病害虫の発生状況

1) きゅうりの病害

巡回調査では、促成栽培ほ場でべと病、灰色かび病及び褐斑病（南信地域）、うどんこ病（中信及び北信地域）がみられた。露地栽培ほ場では、病害の発生はみられなかった。

2) トマトの病害

巡回調査では、促成栽培ほ場で灰色かび病（中信地域）が目立つところがあった。ジュース用トマトほ場では、病害の発生はみられなかった。

3) レタスの病害虫

病害では、巡回調査で斑点細菌病（中信地域）がみられた。

虫害の発生はみられなかった。

4) アブラナ科野菜の病害虫

病害では、巡回調査において、はくさいでピシウム腐敗病（東信地域）がみられ、キャベツで黒斑細菌病が（中信地域）みられた。ブロッコリーでは病害はみられなかった。

虫害では、チョウ目害虫の被害が目立つところがあった。

その他、アブラムシ類、コナガ等がみられたが、詳細については後述する。

5) たまねぎの病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

虫害では収穫期においてネギハモグリバエ、アザミウマ類の被害が目立った。

6) アスパラガスの病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

虫害では、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類の寄生が目立ったが、詳細については後述する。

7) コナガ（アブラナ科野菜）

巡回調査では、一部地域のキャベツ、ブロッコリーで食害がみられた。

フェロモントラップへの誘殺数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）、小諸市山浦（野菜花き試験場 佐久支場）とも期間を通して平年より多かった（第1表）。

第1表 フェロモントラップによるコナガ成虫誘殺消長

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所						
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	34	32	35	31	43	29
小諸市山浦（同 佐久支場）	18	36	24	41	10	7
諏訪郡原村（防除適期決定ほ）	23	24	28	34	28	41
東筑摩郡朝日村（地区発生予察ほ）	0	0	0	0	1	1
上田市菅平高原（地区発生予察ほ）	0	0	1	3	1	0
長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）	70	32	20	42	24	36

8) オオタバコガ

巡回調査では、被害はみられなかった。

フェロモントラップへの誘殺数は、全般に平年並であったが、豊丘村（防除適期決定ほ）で第6半旬に急増した（第2表）。

第2表 フェロモントラップによるオオタバコガ成虫誘殺消長

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所						
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	3	1	1	1	2	4
小諸市山浦（同 佐久支場）	3	3	3	2	6	6
須坂市（農業試験場）	1	4	1	0	0	1
豊丘村神稲（防除適期決定ほ）	3	2	6	3	3	23

9) ヨトウガ類

巡回調査では、被害はみられなかった。

フェロモントラップへの誘殺数は、全般に平年並であった（第3～5表）。

第3表 フェロモントラップによるヨトウガ誘殺消長

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所						
塩尻市（野菜花き試験場）	8	8	5	7	4	4
須坂市（農業試験場）	1	2	1	0	0	0

第4表 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺消長

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所						
塩尻市（野菜花き試験場）	4	4	1	1	0	0
須坂市（農業試験場）	1	1	0	0	1	4
上田市（地区発生予察ほ）	0	2	0	3	1	0

第5表 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ誘殺消長

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所						
塩尻市（野菜花き試験場）	2	0	1	0	1	0
長野市（地区発生予察ほ）	0	0	0	0	0	0

10) ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、収穫期のたまねぎでみられた他、ねぎ（南信及び中信地域）で発生が目立つところがあった。

11) アブラムシ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、きゅうり（北信地域の露地栽培）、トマト（北信地域の施設栽培、南信及び中信地域の露地栽培）、はくさい（中信地域）、アスパラガス（北信地域）、ねぎ（南信及び中信地域）で寄生がみられ、中信地域のジュース用トマト、北信地域のアスパラガスでは発生が多いところがあった。

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長調査では、調査地点により飛来数のピークは異なるものの、前年値より多めに推移しているところが多かった（第6表）。

第6表 黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の飛来消長

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所						
塩尻市宗賀（野菜花き試験場）	21	17	23	9	—	11
小諸市山浦（同 佐久支場）	43	31	20	8	34	79
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）	12	63	44	85	55	14
富士見町（地区発生予察ほ）	36	56	51	30	84	74
上田市菅平（地区発生予察ほ）	62	29	19	6	4	7
上田市真田（防除適期決定ほ）	41	36	37	67	70	24

長野市（地区発生予察ほ）	20	15	16	16	56	12
--------------	----	----	----	----	----	----

12) アザミウマ類（ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

巡回調査ほでは、促成栽培キュウリ（南信及び中信地域）、露地きゅうり（北信地域）、促成栽培トマト（南信地域の一部）で主として花への寄生がみられた。

ねぎ（南信及び中信地域）で寄生や食害痕が目立った他、雨よけ及び露地栽培アスパラガス（北信地域）でも寄生がみられた。

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長調査では、長野市（地区発生予察ほ）で第6半旬に急増した（第7表）。

第7表 青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長

月・半旬	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
調査場所						
塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）	0	0	0	3	0	1
富士見町（地区発生予察ほ）	0	0	3	1	2	3
上田市（地区発生予察ほ）	1	3	1	0	0	1
長野市（地区発生予察ほ）	0	5	2	8	6	24

13) ハダニ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、促成栽培キュウリ（南信地域）、促成栽培トマト（中信地域）、きく（東信地域）でみられた。